

避難所運営ゲーム(HUG)実施報告書

あんぜん・あんしん委員会

12月3日(火)明倫小学校において、6年生児童を対象にした「避難所運営ゲーム(HUG)」を実施しました。

初めに、被害や避難の状況と備蓄品について先生が映像を見せながら児童に説明を行ないました。その中で8人の先生は怪我をして動けない、他の先生は保護者への連絡や割れた窓ガラスの片付けなどの対応に追われているため、避難場所での運営は6年生に任されたという想定で設問の対応策を各班で話し合いました。

*** 設問および対応策の紹介***

設問1「食料を配ろうとしたら、ビスケットは200人分、水は350本しかありません。どうしますか。」

避難者:先生40人、児童339人、地域避難者(高齢者20人、乳幼児10人)

対応策 ○優先順位をつける(高齢者や乳幼児、低学年を優先する) ○年齢により食べる量を調節する
○最低限の食料を配る ○食事の工夫をする(よくかむ、ビスケットを水でふやかす)
○水筒のお茶を先に使う ○水が入る容器を使う(水筒、歯磨きコップ)

設問2「夜になると気温が5℃になりました。寒くて震えている子やお年寄りがいます。どうしますか。」

備蓄の毛布:200枚

対応策 ○1枚の毛布を複数の人で使う ○ダンボール、新聞、カーテンを利用する ○人と人が近づく
○火を使う(理科室にあるマッチ、アルコールランプなど)

設問3「夜になったら、低学年の子が何人か不安で泣き出しました。一人が泣くと次々に泣いています。どうしますか。」

対応策 ○安心させる(一緒に寝る、抱っこをする、話を聞いたり隣にいてあげる)
○遊ぶ(お絵かき、歌、絵本、トランプ)

設問4「次の日、熱のある人が何人か出てきました。どうしますか。」

対応策 ○病気の人は別の部屋にする ○病気に人に水や毛布を優先して渡す
○タオルやハンカチを水で濡らして使う ○水筒を外で冷やした後、おでこや脇の下にあてる

発表では、子どもたちならではの柔軟な考え(対応策)を数多く聞くことができました。

HUGを体験した児童は、「緊急時に役立つため、日頃から考えていきたい」「6年生としてできることを頑張りたい」という感想を述べ、災害について考えるいい機会になりました。

また、児童に対して先生は「今、どのように動くべきかを常に考え冷静に行動することが大切です」、伊勢市危機管理課は「地震は必ずきます。まずは自分の命を守る(自助)、次に地域の人たちと協力をして助けあってください(共助)」と話をされました。

最後に、事前学習として「通学路で土砂崩れの危険性がないか、危険なブロック塀がないか」を子どもたちが調べてきた情報を小学校とまちづくり協議会が共有し、あんぜん・あんしん委員会が現場を確認した後、自治会や関連機関と共に対応策を考えるなど、「地域住民の安全のために」を合言葉に活動をしていきます。

【HUG 被害想定・備蓄品について（一部抜粋）】



【避難所運営ゲーム（HUG）の様子】

